

花鳥風月・短歌

太鼓台お披露目式を終へた後

田植への準備怠りなしや

徳永 誠一

荷ほどきてたらめ濡れて愛知より

からり天プラ摘み食いして

コロナ禍の思い切りたる覚悟して

一江様見舞いて呉市迄

石井 トシ子

姉逝し瀬戸の島影偲びつつ

小波遠し晩春の月

塗 堀 良子

母の日の母の遺愛のスカーフして

パンジーの道想ひは尽きず

三谷 福美

ワクチンの3回終えて一安心

いつまで続くまた4回目

大橋 桃代

春たけて薄着になりし老の身も

今日は寒いと一枚着こむ

一色 ノブ

通勤路外れてどこえでも行ける

退職となり平日の朝

曾我部 福石

粕漬の食欲不振を助けられ

晩収の筍漬を保存せり

小林 泰子

溪流に並んで泳ぐ鯉のぼり

緑の中にひとときわ映える

麦の中刈り取り間近のひばりの巢

親鳥鳴いて巢立ち促す

佐伯 定則

父の日の写真の父は変はらずに

いつもの笑顔いつもの威厳

夏野へと子らの網持ち走りゆく

微笑んでいるやうな青空

小田 和子

梅を干すことを知り抜ける裏通り

二三度止まり風を吸ひ込む

駅前に時の記念日知らせたる

園児ら描く時間の並ぶ

小田 慶喜